

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立海青中学校
1 前年度 評価結果の概要	<p>・授業において、グループワークやリフレクションを取り入れたことにより、生徒が主体的・協動的に授業に臨み、メタ認知能力を高めるような取組を行った。今後も、校区内3つの小学校と連携して取り組んでいる人権・同和教育をさらに推進していく。また、授業中におけるグループ学習を通して課題解決学習を多く取り入れた教材については、成績の伸びと学習意欲の向上が見られた。今後は、家庭学習と授業のリンクを意識し、課題解決力をさらに高める取組を行っていく必要がある。</p> <p>・「いじめはどの学校にも起こりうる」という認識のもと、全職員がアンテナを高くし、生徒の言動に注意深く気を配り、生徒指導上の問題に対し早期発見に努める教職員集団になるよう研修を進めとく。また、自分から挨拶をする生徒も増え、学校全体が落ち着き始めたが、今後も生徒指導の3機能(自己決定の場を与える・自己存在感を与える・共感的人間関係の育成)を活かした教育活動をすべての教職員が実践できるようにして、「チーム海青」として組織</p>
2 学校教育目標	「感謝の気持ちを持ち、自立に向かう生徒の育成」～みんなが楽しい学校に～
3 本年度の重点目標	<p>(1)授業改善を図り、学ぶ生徒の育成 (2)自分から挨拶ができる生徒の育成</p> <p>(3)安心して、学び生活できる集団を作る生徒の育成</p> <p>(4)ボランティア精神にあふれた生徒の育成 (5)部活動の活性化</p>

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				●学力の向上	<p>●全職員による共通理解と共通実践</p> <p>○指導方法の改善</p>	<p>●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上</p> <p>○諸調査における無回答を減らし、対照比や到達目標への達成率を前年度より1P以上向上させる。</p>	<p>・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。</p> <p>・グループ学習の効果を探りながら、学力向上に繋がる研修会を定期的に開く。</p> <p>・参観の視点をはっきりさせ、授業研究会を充実させる。</p> <p>・全職員が1回の研究授業を行う。</p>	
●心の教育	<p>●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動</p> <p>●いじめの早期発見、早期対応体制の充実</p>	<p>○学校行事、生徒会活動、係活動等に積極的に取り組んでいると答える生徒の割合を60%以上にする。</p> <p>○学校が楽しいと答える生徒の割合を65%以上にする。</p>	<p>・定期的GWTやエンカウンターを取り入れ、互いを認め合う授業に取り組む。</p> <p>・生徒・教師・保護者による挨拶運動を実施する。</p> <p>・ボランティア活動を活性化させる。</p> <p>・年2回のhyper-QUの実施と分析・考察を行う。</p> <p>・いじめアンケートや日記・生活ノートを通して、早期発見や早期対応を適切に行う。</p>	A	<p>・「学校行事、生徒会活動、係活動等に積極的に取り組んでいる」と回答した生徒85%。「積極的にボランティア活動に参加している」と回答した生徒66%。</p> <p>・中間評価よりやや下回ったが、目標指数を大きく上回った。</p>	A	<p>・コロナの影響で、学校行事になかなか参加できなかったことが残念である。</p>	<p>・道徳教育推進教員 ・人権・同和教育担当者 ・各学年主任</p>
●健康・体づくり	<p>●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」</p> <p>●「安全に関する資質・能力の育成」</p> <p>○精神面、技術面の向上を目指した部活動指導</p>	<p>●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒85%以上</p> <p>●児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする</p> <p>○県大会に出場する部活動を増やす。</p> <p>○持久力の数値を前年度より上げる。</p>	<p>・「早寝、早起き、朝ごはん」の大切さを多くの場面で意識させ、自己の健康管理に活かせるようにする。</p> <p>・交通安全教室の効果的な実施。</p> <p>・生徒自身が、学校内外で起こりやすい怪我や病気等を知り、予防できるようにする。</p> <p>・県大会を目指す機運を高める。</p> <p>・体育の授業や部活動を通して体力づくりを推進する。</p>	B	<p>・「毎日、早寝・早起き・朝ごはんができて」と回答した生徒77%。家庭との連携が今後も必要である。</p> <p>・1月末現在、生徒の交通事故0(ゼロ)</p>	B	<p>・子どもたちが学校生活に満足しているところが多いと思う。</p> <p>・全ての家庭において、食の大切さについてしっかり考えてほしい。</p>	<p>・食育担当教員 ・家庭科担当教員 ・養護教諭</p>
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	<p>●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減</p> <p>○学年・学級経営の充実</p>	<p>●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する。</p> <p>○PDCAサイクルを取り入れ、hyper-QUの結果を分析・検討して、学級経営に活かす。</p> <p>○学年の協働意識を高め、職務の効率化と生徒指導の充実を図り、時間外勤務の時間を前年度より減らす。</p>	<p>・定時退勤日の設定。</p> <p>・部活動休養日の設定。</p> <p>・学校閉庁日の設定。</p> <p>・学級経営案を職員で供覧し、各自の取組に対しての意識化を図る。</p> <p>・週1回の学年会の中で、情報交換や協議を行い、共通理解に基づいた協働を推進する。</p>	B	<p>・部活動休養日、定時退勤日の設定を確実にし、前年度より時間外勤務の時間は減ったが、全職員の時間外勤務を月45時間以内にするのは出来なかった。</p> <p>・、hyper-QUの結果を全職員で共有し、生徒理解・学級経営に活かすことができた。</p> <p>・学年の協働意識が高まり、生徒指導の充実につながっている。</p>	B	<p>・先生方は、部活動にも一生懸命取り組んでくれているので、時間外勤務が増えるのも仕方ない。</p> <p>・子どもたち一人ひとりの心の状態、友人関係を全職員で共有して対応している。その結果、落ち着いた学校になりつつあることが感じられる。</p>	<p>・管理職</p> <p>・研究主任 ・各学年主任</p>

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				○生徒指導・教育相談の確立	<p>○生徒指導の重点指導方針を活かした自己指導力の育成</p> <p>○個に応じた支援の推進</p>	<p>○自分のことが好きだと答える生徒の割合を65%以上にする。</p> <p>○先生に困ったことや悩みを相談できると答える生徒の割合を65%以上にする。</p>	<p>・生徒会と連携し、生徒の主体的な活動を位置づける。</p> <p>・学校教育目標を意識し、「みんなが楽しい」とは？という問いを生徒に返し全職員、生徒同士、生徒と教師が繋がり、互いに尊重し合う態度を育成する。</p>	
○保護者・地域に信頼される学校づくり	<p>○学校安全管理に基づく危機管理体制の整備</p> <p>○学校公開と情報提供の推進</p>	<p>○災害発生時に対応できる実践的な避難訓練を定期的に行う。</p> <p>○学校教育目標の周知率を80%以上にする。</p> <p>○携帯掲示板のアクセス数を100以上にする。</p>	<p>・原子力防災、火災、地震、不審者対応等の避難訓練の実施。</p> <p>・保護者や地域の方々に参加しやすい学校行事を工夫する。</p> <p>・適時、携帯掲示板を活用し、情報を発信する。</p>	B	<p>・学校教育目標の周知率は、82%。目標指数を上回ることができた。</p> <p>・携帯掲示板のアクセス数を100以上にすることができた。</p> <p>・屋内退避訓練、火災・地震対応の避難訓練は実施。不審者対応の避難訓練が実施できていない。</p>	A	<p>・「大丈夫だろう」ではなく、「危険なことが起こるかもしれない」という意識を子どもたちに持たせてほしい。</p>	<p>・管理職 ・安全教育担当教員 ・情報教育担当教員</p>
○特別支援教育の充実	<p>○教員の専門性と意識の向上</p>	<p>○特別支援教育に関する研修会を学期に1回行い、教員の専門性を向上させる。</p> <p>○ケース会議等を充実させ、支援の在り方、支援の方向性を見据えて適切に支援できる教員を増やす。</p>	<p>・個に応じた適切な対応ができるように、外部講師を招聘して専門的知識を習得する研修会を行う。</p> <p>・支援が必要な生徒の情報共有し、該当生徒に対してケース会議を開き、全ての教員が対応できる環境を整える。</p>	B	<p>・3学期の初めにOUの分析・考察を全職員で行い、気になる生徒への共通理解を図った。</p> <p>・支援を要する生徒の実態把握表を作成し、全職員で共通理解を回った。事案によっては、保護者や生徒をSCやSSWに任せ、専門機関との連携を図った。</p>	A	<p>・よく関係機関とも連携を図り、早期対応がなされている。</p>	<p>・特別支援教育コーディネーター ・教育相談主任 ・養護教諭</p>
○教職員の資質の向上	<p>○生徒、保護者、地域から信頼される教職員</p>	<p>○勤務規律の厳正を図り、勤務規律違反、事故等の発生をゼロにする。</p> <p>○出張、休暇、職免等の処理の適正化を図る。</p>	<p>・毎月1日を「勤務指導ゼロの日」として、チェックリストを実施し、意識づけを図る。</p> <p>・勤務に関して、職員会議等で研修を行う。</p> <p>・「信頼される教職員であるために」等の資料を用いて、全職員が研修を深める。</p>	B	<p>・教職員の事故の発生はゼロである。</p> <p>・出張等の処理も確実にできている。</p> <p>・今後も定期的に、勤務規律の保持についての具体的な事例をもとにした研修会を実施する。</p>	B	<p>・仕方がないことではあるが、教員の予測しない事故が起こってしまったことが残念である。</p>	<p>・管理職</p>

5 総合評価・次年度への展望	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育</p> <p>・「自他を大切に、お互いを認め合い、共に高め合う児童生徒の育成～小学校・中学校・地域の連携を基盤とした人権教育を目指して～」というテーマのもと、中学校区内の3つの小学校とも連携を図りながら、研究を進めた。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、行事の削減・縮小で保護者や地域の方々との連携は難しく、また、小中合同の研修会も数を減らさざるを得なかった。</p> <p>・全職員が共通理解のもと、組織的な生徒指導を実践し、問題行動を未然に防ぐ開発的な生徒指導を行ったことで、生徒間暴力や対教師暴力、教師に対する暴言、威嚇、挑発などの問題行動は、前年度に比べて減少した。また、自主的な生徒会活動も活発で、生徒会からの呼びかけによる花壇の花植えやごみ拾いなどへ、多くの生徒がボランティアとして参加した。しかし、学力の向上、生徒間トラブル、不登校生徒への対応等、課題は多い。</p> <p>・今後も小中連携を基盤とした更なる授業改善に努めるとともに、分かる授業、魅力ある授業・学校づくりのための研修を深め、学力の向上と生徒指導の充実を図らなければならない。また、来年度は、海青中校区での人権教育推進事業における公開授業を行う予定である。小中連携、家庭や地域と連携した取り組みを継続し、さらなる人権教育の推進を展開していく。</p>
----------------	---